

1. 地域連携の好事例

①自治体等と連携した、ゼロカーボンにつながるまちづくり

X船橋市「未来地図（Fu-map）」の作成

温室効果ガスのCO2を吸収する緑地の分布について、都市開発と緑地喪失の解析による将来予測を行った最新の研究成果を基に、一般にわかりやすくかつ視覚的に表現した立体デジタルマップアニメーションを作成し、市民イベント等で公開展示した。



X富里市「富里の森林再生PJ」にむけた取り組み

地域における生態系の炭素循環における土壌微生物の役割などの研究を開始した。今後、まちや小中学校を巻き込んだ植樹祭やイベントへ展開予定。教員が森の役割などをレクチャーしたり、学生にも参加してもらうことで、ゼロカーボンに関する人材育成や教育を地域と共に実施することを検討している。



②企業と連携した、環境人材育成

X株式会社イシド「ECORUITINGプロジェクト」の推進

ECO（環境）とRECRUITING（就活）を組み合わせたプロジェクト。学生チームが提案した省エネ活動を企業が実行することで、CO2の削減に貢献することを目的にしている。さらに、企業の広報活動にも繋げ、地域における人材交流・育成も含めた取り組みを目指している。



X県内企業「TOHO ウォールアートプロジェクト」

大学の道路面外壁へ、地域の事業者による、気候変動対策を含むSDGsに関する取り組みを紹介する展示を行い地域への発信を行った。



③中高教員と連携した、ゼロカーボン教育の推進

X卒業生 東邦大学エネルギー環境教育研究会、東邦大学理学部ひよこプロジェクトの推進

理学部教員養成課程の教員を中心に、大学生だけでなく、本学の卒業生である中高教員へのフォローアップも含めたゼロカーボン教育を推進してきた。

2. 地域連携の課題

継続的な連携のできる体制づくり

地域ゼロカーボンにむけた取り組みは、継続的な連携ができる体制づくりが不可欠であるが、その受け皿となる学内部署の選定や、継続的な学生の確保などの点で課題がある。また、本学の特徴として、国家試験取得に直結している学部が多く、地域連携に向けたインセンティブが教員・学生双方に働きづらい。

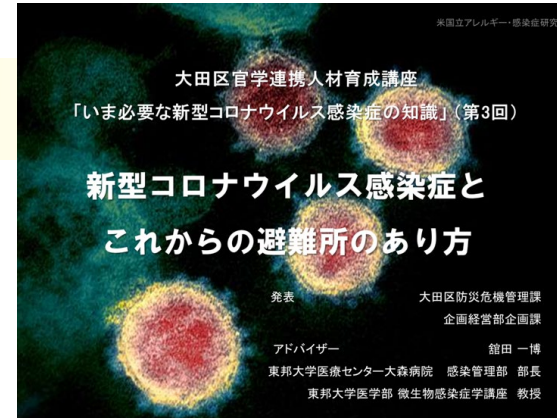
学生の活動費の工面

地域連携の際に必要な、ちょっとした交通費や活動費などは、積み重なると学生にとっては大きな負担になる場合があるが、これらを支援するための仕組みがなく、これが障壁となって参加できない学生も少なくない。

3. その他の特徴的な取り組み

感染症対策や防災に関する自治体との連携

近年多発している自然災害時の避難場所の設置、あるいは避難場所における感染症対策などを自治体(大田区)と連携し、積極的に取り組んでおり、この一環として、防災やゼロカーボンに関する情報発信を強化することを検討している。



習志野商工会議所と連携した「市内建設・工業事業者ゼロカーボン」の取り組み

FITが導入された2012年に習志野商工会議所・工業部会における太陽光発電の導入意向を確認したことに始まり、将来のゼロカーボンにむけた建設業・工業のあり方についての意見交換会やワークショップを検討している。残念ながらコロナ禍にあって、あまり検討が進められていない状況にもあることが課題である。